

脱炭素経営「GX500」ソフトバンク首位に 本社調査

電子版 2023年11月7日

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC254Q20V21C23A00000000/>



ソフトバンクは再生エネと基地局を組み合わせてCO₂排出量を減らす

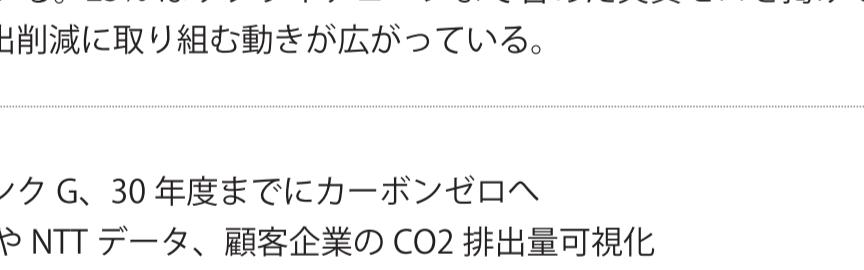
日本経済新聞社は脱炭素の取り組みで有力企業500社をランク付けした「GX（グリーントランスマーケーション）500」に最新の情報を反映し、2023年版をまとめた。首位はソフトバンクで、NTTやセイコーエプソンなどが続く。競争力維持のために再生可能エネルギーの導入などを積極的に進める企業が上位に並んだ。=全ランキングはこちらから確認できます（NIKKEI GX会員限定で公開中）

GX500 2023年版の上位10社

1	ソフトバンク
2	NTT
3	NTTデータグループ
4	セイコーエプソン
5	リコー
6	東急不動産ホールディングス
7	コニカミノルタ
8	みずほフィナンシャルグループ
9	丸井グループ
10	東芝

(注)23年の「日経SDGs経営調査」から脱炭素に関する項目を抽出して評価した

11位以降は下のバナーからご覧いただけます（NIKKEI GX会員限定）



全国上場企業と有力非上場企業を対象に実施した2023年の「SDGs経営調査」（有効回答は899社）から、専門メディアの「NIKKEI GX」がGXに関する設問への回答を抽出。「情報開示」や「温暖化ガス削減の具体策」など5分野で評価し、得点を偏差値にしてランキングした。

ソフトバンクは5分野のうち「削減の目標設定」など2分野でトップ評価だった。30年までに事業で使う電力をすべて再生可能エネルギーに切り替えるなど、野心的な計画を掲げる。50年までにはグループ企業も含めてサプライチェーン（供給網）全体で二酸化炭素（CO₂）排出量を実質ゼロにする。

総合2位のNTTは温暖化ガス削減の具体策で1位になった。製品やサービスごとのCO₂排出量を示すカーボンフットプリントの算定などで先行する。自社のサービスや製品を通じて温暖化ガスをどれだけ削減したかを示す「削減貢献量」は、30年度に自社グループからの排出量の10倍以上とする目標を掲げる。

4位のセイコーエプソンは循環資源利用率を20%以上に高めた。

温暖化ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル宣言は、7割超の企業が既に目標設定を終えている。25%はサプライチェーンまで含めた実質ゼロを掲げており、取引先とも連携して排出削減に取り組む動きが広がっている。

【関連記事】

- ・ソフトバンクG、30年度までにカーボンゼロへ
- ・日本IBMやNTTデータ、顧客企業のCO₂排出量可視化
- ・消費電力9割減の複合機、エプソンが増強 世界市場開拓

評価の方法

GX500は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みを格付けする、日本経済新聞社の「SDGs経営調査」のGXに関する回答に絞り企業を評価した。一橋大学の伊藤邦雄CFO教育研究センター長の監修を得た。

【アンケート調査の概要】

2023年5月、全国の上場企業および従業員100人以上の有力非上場企業を対象に実施した。有効回答は899社（うち上場企業830社）。なお、有力企業でも回答を得られず、ランキング対象外となったり、回答項目の不足から得点が低く出たりするケースがある。

【スコアの算出方法】

スコアを測定する指標について、情報開示、排出量の管理や削減実績、省エネや再生エネ活用、温暖化ガス削減の具体策、削減の目標設定の5分類でまとめ、中分類得点を算出した。さらに、各分類の評価を単純合算し、総合評価を作成した。

【総合評価・分野別評価の表記について】

評価は、各社の得点から偏差値を計算して作成した。偏差値72.5以上がS、以下偏差値2.5刻みで、AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC、CC、C、DDD、DD、D、EEE、EE、Eと表記している。

評価に使用した各種指標の集計結果やスコアの詳細データは日経リサーチが提供する。詳細はHP（<https://service.nikkei-r.co.jp/service/sdgs/sdgs-management>）を参照。

（日経リサーチ 編集企画部）